

日本観光研究学会・関西支部ニューズレター

写真：修景された出雲の神門通
（撮影：小長谷）

観光学

第12号 2023年度
（2024年3月発行）

JITR-Kansai
Japan Institute of
Tourism Research No.12



★日本観光研究学会・関西支部（JITR-Kansai）ホームページ→【 <https://www.kankoryoku.jp/> 】
ニューズレター『観光学』第12号 2023年度（2024年3月発行）

1. 2023（令和5）年度関西支部活動をふりかえって（支部長 小長谷一之）

2023年は、いよいよ本格的なコロナからの観光再生の年となり、学会の諸活動も、研究部会等以外では完全にリアル開催となりました。特に、代表的な2大活動（中四国の会員・自治体応援のための「中四国現地研修会」、関西地域の自治体応援のための「地区懇話会」）を無事、現地開催できました。「中四国研修会」は、今年は、伝統的な神社観光資源に加え、素晴らしい修景まちづくりにより周辺エリアが活性化している出雲市で、観光とともに地域づくり関係のみなさまと意見交換をおこない、また関西自治体との「地区懇話会」では、伝統的な城の観光資源に加え、食・農のまちづくりに取り組んでいる岸和田市で、食・農・リノベーションの専門家のみなさまとも意見交換をおこない実り多いものとなりました。「意見交換会」では、地域活性化で注目されている関係人口や交流人口について情報提供をいただき、活発な議論をおこないました。いずれも関心高く多数の参加がありました。関係のみなさまに深く感謝申し上げます。

2. 2023（令和5）年度関西支部活動をふりかえって（副支部長 松田充史）

観光が本格的に再開した2023年度、関西支部は6月に第20回意見交換会「モビリティ時代の観光—持続可能な交流人口・関係人口を目指して—」をテーマに4年ぶりに対面にて開催しました。10月には地区懇話会を岸和田市と連携しておこないました。さらに観光学研究部会（オンライン）では遠藤雅己（神戸国際大学教授）先生を迎え「観光における危機管理教育について」を実施し、観光サロン（オンライン）を2回、11月奥本晃士氏（滋賀県商工観光労働部観光振興局シガリズム推進室 主幹兼誘客促進係長）「滋賀県の観光振興～シガリズムとビワイチによる観光～」、1月立溝純也氏（近畿運輸局観光部観光地域振興課長）「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン～関西全体をパビリオン化～」を開催しました。その他、NPO 観光力推進ネットワーク関西の講座や学生発表を学術面から応援いたしました。みなさまの参加がこれらの活動を支えています。ぜひ支部活動のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

3. 支部活動1『関西支部総会』および『第20回 意見交換会：関西から観光立国・立国を考える』『モビリティ時代の観光—持続可能な交流人口・関係人口を目指して—』（後援：国土交通省近畿運輸局）

【総会】（1）日時：2023年6月3日（土）。11：00～11：20。（2）会場：阪南大学あべのハルカスキャンパス（あべのハルカス23階オフィスフロア）。（3）議案 第1号議案・2022年度活動報告ならびに収支決算、

第2号議案・2023年度活動計画ならびに収支予算案。無事終了しました。【意見交換会】（1）日時：2023年6月3日（土）。13:00～16:00。（2）会場：同上。（3）プログラム：1）支部長挨拶・趣旨説明：日本観光研究学会関西支部長 小長谷一之（大阪公立大学大学院都市経営研究科教授）。2）特別講演：「関西における観光政策の現状」国土交通省近畿運輸局 観光部長 藤原幸嗣氏。3）基調講演「モビリティ時代の移動者のあり方」敷田麻実氏（北陸先端科学技術大学院大学教授）。4）シンポジウム「交流人口・関係人口のこれから」（パネリスト）敷田麻実氏（北陸先端科学技術大学院大学教授）。田中健一氏（一般社団法人石見音楽文化振興会代表理事）。久保由加里氏（大阪国際大学教授）。（コーディネーター）堀内史朗（日本観光研究学会関西支部幹事・阪南大学国際観光学部教授）。（意見交換会とは）日本観光研究学会関西支部は、「関西から観光立国・立圏を考える」意見交換会として、関西地域の大学等の観光研究者と自治体・各種公共組織等の観光関連事業者との「学」と「官」との連携を深める事業で、毎年観光における重要課題を取り上げてシンポジウムを開催しています。



4. 支部活動2『地区懇話会』「岸和田の魅力が広がる 観光の今と未来—南大阪をリードする城下町・農・食の観光—」（主催：日本観光研究学会関西支部、共催：岸和田市）【日時】2023年10月29日（日）9:30 集合～エクスカーション、14:00～基調講演・シンポジウム【会場】岸和田市立浪切ホール 特別会議室★「地区懇話会とは？」日本観光研究学会の関西支部で毎年、自治体と連携する地域大会です。近年「定住人口だけでなく交流人口へも注目」という政策で一般的な住宅都市や産業都市でも観光都市を目指すところが増えてきており、これまで堺市（2016年度）、池田市（2017年度）、河内長野市（2018年度）、尼崎市（2020年度）、高槻市（2021年度）、貝塚市（2022年度）と応援してきました。2023年度は岸和田市で開催することになりました。岸和田市はすでにだんじりや岸和田城等の歴史的資源がありますが、さらにまちなかでは周辺城下町の整備・活用、郊外部では道の駅「愛彩ランド」を中心とする農業・農村観光等を進め、そして、今、新しい観光魅力の拡大のため、豊かな海の幸・山の幸を活用し、岸和田の新しい食をつくる「食の磨きあげ事業」にも取り組んでいます。今回は、市長様はじめ市内の民間のキーパーソンがそろって、岸和田観光の魅力の拡大や今後の可能性について語り合い、大変盛り上がりしました。【プログラム詳細】（1）9:30 に南海岸和田駅から出発し、農村丘陵部にある愛彩ランド（道の駅）に向かい、入場制限をするほど繁盛している直売所、地産地消レストラン等について、JA いずみのの組合長の谷口氏に案内いただきました。その後、岸和田城を含む周辺城下町について、岸和田市観光ボランティアガイドにご案内いただきました。また、古民家リノベーション物件「朝比奈亭」で昼食をいただきました。（2）大阪湾や岸和田の市街地を見晴らせる

浪切ホールの特設会議室にてシンポジウムを行いました。1）まず、当支部長の小長谷一之及び共催者である岸和田市の堤副市長より開会のご挨拶をいたしました。2）つぎに、永野耕平岸和田市長より「岸和田市の魅力が広がる、観光の今と未来」と題し、市域全体を城下町と捉えて、城下町泊を進めていること、外から岸和田を見た場合の認知度と魅力度のギャップについて、農産物や海産物の豊かさを活かし「泉州和タリアン」として、2025年の大阪・関西万博も活かし世界に向けてブランディングしていきたいことなど、話題豊富な基調講演がありました。3）続いてパネリスト、①中原啓尊氏（岸和田古眠家 Base 代表）、②谷口敏信氏（JA いずみの組合長）、③森孝司氏（大阪調理製菓専門学校 校長代理）、④阪口寿子氏（岸和田市観光振興協会 事務局長）からご説明をいただきました。（3）続いて、支部長の小長谷一之がコーディネータを務めパネルディスカッションに入りました。最後に市長のコメント及び波積副市長からの締めのご挨拶をいただきました。今回は熱意のある参加者が多く、盛況でした。市役所および関係団体のみなさまのご協力には深く感謝申し上げます。



5. 支部活動3「観光学研究部会」

（1）第1回観光学研究部会 【日時】2023年10月24日（火）20:00～【会場】オンライン（Zoom）
【テーマ】「観光における危機管理教育について」【講師】遠藤雅己（えんどう まさき）氏（神戸国際大学教授）。日本ではほとんど研究がされていない観光における危機管理の問題について、神戸国際大学での授業経験にもとづいて欧米などでの研究をご紹介いただき、あらためて観光において、感染症・大災害・事故・テロなどに対する危機管理の問題の重要性をお話いただきました。

6. 支部活動4「観光サロン」

（1）第1回観光サロン 【日時】2023年11月28日（火）20:00～【会場】オンライン（Zoom）【テーマ】「滋賀県の観光振興～シガリズムとビワイチによる観光～」【講師】奥本晃士氏（滋賀県商工観光労働部観光振興局シガリズム推進室 主幹兼誘客促進係長）。滋賀県では、コロナ禍に計画期間を1年前倒しして、2022年度からスタートする新たな計画「シガリズム観光振興ビジョン」を策定しました。琵琶湖をはじめとする開放的でゆとりある空間やアウトドア体験などの特徴を生かした観光を方針に掲げ、「シガリズム」という名のもと、積極的な観光振興に取り組んでいます。また、琵琶湖岸を巡るサイクルツーリズム「ビワイチ」にも力を入れており、アフターコロナにおける滋賀ならではの観光振興について、お話いただきました。

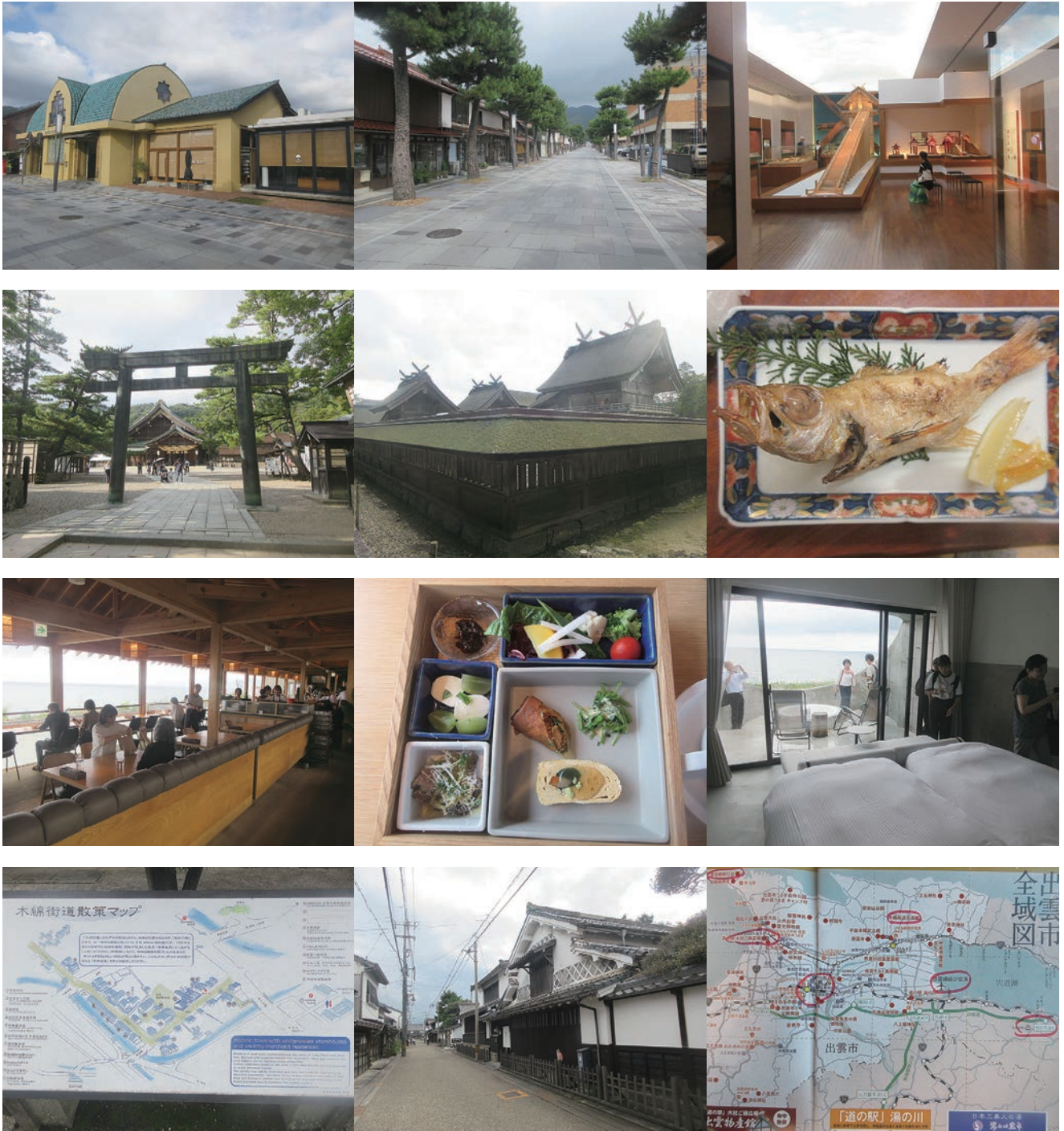
（2）第2回観光サロン 【日時】2024年1月23日（火）20:00～【会場】オンライン（Zoom）【テーマ】「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン～関西全体をパビリオン化～」【講師】立溝純也（たてみぞ じゅんや）氏（近畿運輸局観光部観光地域振興課長）。近畿運輸局はコロナ禍で大きな影響を受けた関西の観光・交通の回復に向けて、「大阪・関西万博」を最大のチャンスと捉えています。万博への想定来場者2820万人の一人でも多くの方に関西全域へと周遊していただくため、関西全体を万博会場に、各地域をパビリオンに見立て、「万博会場の外にも関西という万博会場がある」というコンセプトで取組を進めています。そこで、いよいよ来年に大阪・関西万博が開催される新年を迎え、関西観光と関わる取り組みについてお話しをいただきました。

7. 支部活動5『中四国現地研修会』『出雲のまちづくりと観光戦略』

【会場】出雲市【日時】2023年9月27日（水）～28日（木）。集合：奥出雲そば処一福 出雲大社神門通り店、解散：出雲空港・JR出雲市駅。○現地集合：9月27日（水）12時「奥出雲そば処一福 出雲大社神門通り店」にて集合。○帰路集合：9月28日（木）出雲空港14時45分/JR出雲市駅15時30分。

★「関西支部中四国研修会」とは？日本観光研究学会関西支部では、中四国地域の観光政策担当者との意見交換や中四国地域の会員の参加を念頭に、中四国会員を舞台とした研修会を開催しています。2014年度は太平洋岸の高知県（黒潮町の砂浜美術館）、2016年度は瀬戸内・四国側の愛媛県（三津浜地区・道後温泉・松山市での政策ヒアリングと見学等）、2017年度は瀬戸内・中国側の広島県（尾道市の町家再生、千光寺山からの坂のまち、しまなみ海道等）、2018年度は日本海側の鳥取・倉吉・由良エリア、2019年度は四国・徳島県内陸部の「にし阿波、三好市、祖谷溪観光圏」（アレックスカーの宿）、2020年度は高知県の「仁淀川流域」（日本一の清流「仁淀ブルー」で有名）、2021年度は愛媛県西部の伊予の小京都「大洲」と「内子」で、2022年度は香川県「小豆島」で、3年に1度、瀬戸内海の12の島と2つの港を舞台に現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」が開催される中、活発な意見交換をおこないました。2023年度の今年は、縁結びのまち「出雲市」と周辺エリアで実施いたしました。出雲市では、近年、素晴らしいまちづくりで周辺エリアも活性化しており、観光とともに地域づくり関係のみなさまと意見交換をおこないました。【1日目】奥出雲そば処一福 出雲大社神門通り店で集合し、名物出雲そばをご賞味いただいた後、出雲大社神門通りや古代出雲歴史博物館を視察しました。その後、出雲市支所大社行政センターを訪れ、出雲市都市建設部のみなさんと神門通りのまちづくり（街路整備・建物修景）についてうかがい、その後意見交換をおこないました。そして出雲大社をガイド案内いただき参拝したのち解散いたしました。【2日目】JR出雲市駅で集合後、貸切バスで日御碕地区を訪問し、日御碕ビジターセンターからガイド案内いただきながら石造灯台としては日本一の高さ（43.65m）を誇る出雲日御碕

灯台に上るなどの視察をいたしました。そして、出雲市役所を訪れ、出雲市観光交流部の皆様から観光の現状と戦略についてうかがい活発な意見交換会を実施しました。その後、今年湖陵西海岸にて食をベースとした地方創生プロジェクトとして誕生した WINDY FARM ATOMOSPHERE を訪れレストランやホテルの視察をおこない、さらに平田エリアに移動し木綿街道を視察、出雲空港・JR出雲市駅で移動解散しそれぞれ帰路につきました。今回は、受け入れ先の皆様の多大のご協力により、たいへん実り多い研修が実施でき、無事終了することができました。出雲市都市建設部および出雲市観光交流部のみなさまに、あらためて、深く感謝を申し上げます。



8. 支部活動6 関西支部幹事会開催記録（2023年度）

- | | | |
|-----|---------------------|----------------|
| 第1回 | 2023年4月25日（火）19：30～ | 会場：オンライン（Zoom） |
| 第2回 | 2023年5月23日（火）19：30～ | 会場：オンライン（Zoom） |
| 第3回 | 2023年6月27日（火）19：30～ | 会場：オンライン（Zoom） |

- 第4回 2023年7月25日（火）19:30～ 会場：オンライン（Zoom）
第5回 2023年9月20日（火）18:30～ 会場：ハイブリッド：（対面）イオンコンパス会議室（大阪駅前第2ビル15F）+Zoom（NPO法人と合同開催）。
第6回 2023年10月24日（火）19:00～ 会場：オンライン（Zoom）
第7回 2023年11月28日（火）19:00～ 会場：オンライン（Zoom）
第8回 2023年12月26日（火）19:30～ 会場：オンライン（Zoom）
第9回 2024年1月23日（火）19:00～ 会場：オンライン（Zoom）
第10回 2024年2月27日（火）19:30～ 会場：オンライン（Zoom）
第11回 2024年3月26日（火）19:30～ 会場：オンライン（Zoom）

9. 支部活動7 NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」の応援と協働

（1）NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」本年度を振り返って（理事長挨拶）原一樹

コロナ禍からの観光の回復が進展した2023年度、NPO活動もほぼコロナ禍前の形を取り戻すことができました。観光マネジメント講座は3日間にわたり対面で実施し、企業や大学等、様々な立場の方に受講いただけました。学生連絡協議会の学生達は、城崎温泉就業研修、京都での歴史文化体験、5大学14チームが対面で参加した第10回学生研究発表会など、様々な形で観光学修や交流を行うことができました。来年度も引き続き、更に活発に取り組を進めていければと考えています。

（2）NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」本年度を振り返って（副理事長挨拶）小長谷一之

2023年度は、毎年恒例の「歴史文化体験」「城崎研修」「研究発表」の3事業があり、さらに多様な城崎応援プロジェクトも含め、活発に活動をおこないました。関係のみなさまのご協力に感謝いたします。今後とも宜しくお願いします。

（3）NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」本年度を振り返って（副理事長挨拶）高根沢均

2023年度はインバウンド観光が本格的に再始動し、円安の影響もあって日本の多くの観光地が再び外国人観光客でにぎわうようになりました。NPOでは、城崎での宿泊研修・インターンシップ体験や秋の京都歴史文化体験を通じて、観光を学ぶ学生たちに観光地の現状を体感してもらうことができました。2月にあべのハルカスで開催された学生研究発表会は、関西圏の大学にある観光系学部・学科から多くの学生たちが参加し、1年間の学びと経験を共有する機会となりました。2024年度も引き続き観光を学ぶ学生たちの支援に力を入れていきたいと思っています。

（4）第18回「地域創造のための観光マネジメント講座」の開催

【日時】★全12回3日間すべて土曜（2024年1月13日・20日・27日）【会場】大阪公立大学梅田サテライト・文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）。【プログラム】●第1日目1月13日（土）：第1回（10:00～11:10）「ニューツーリズム革命と地域創造型観光のマーケティング」小長谷一之（大阪公立大学大学院教授）。第2回（11:20～12:30）「ツーリズムと関係人口」堀内史朗（阪南大学教授）。第3回（13:20～14:30）「サステナブルツーリズム」原一樹（京都外国語大学教授）。第4回（14:30～15:40）「インバウンド戦略の基礎と展望」戴智軻（京都外国語大学教授）。第5回（15:50～17:00）「近代建築物の活用とプライダル」石橋仁美（大阪学院大学教授）。●第2日目1月20日（土）第6回（10:00～11:10）「農と食のツーリズム」原田弘之（大阪成蹊大学准教授）。第7回（11:20～12:30）「観光地域ブランド戦略」松田充史（大阪成蹊大学教授）。第8回（13:20～14:30）「ヘルスツーリズム」西村典芳（流通科学大学教授）。第9回（14:30～15:40）「リノベーション戦略と観光」高根沢均（関西国際大学准教授）。第10回（15:50～17:00）「ネイチャーツーリズム」前田武彦（神戸国際大学教授）。●第3日目1月27日（土）第11回（10:00～11:10）「酒蔵ツーリズム」五嶋俊彦（大阪観光大学准教授）。第12回（13:00～16:00）「受講生による地域創造型観光プロジェクトに関するプレゼンテーションとディスカッション」。

（5）観光力ネット・学生連絡協議会（学連協）の応援

1) 学連協【歴史・文化体験】「京都染物体験と嵐山散策ツアー」（京都：嵐山）【実施日】2023年12月2日（土）9:45～17:00【参加大学】【当日の行程】 阪急京都線西京極駅に集合した後、「京ローケツ やまもと染工」に移動し、染物体験を行いました。その後、最後に嵐山に移動、散策し、晩秋の京都を楽しみました。



2) 学連協【地域連携プロジェクト】「インターンシップ in 城崎プログラム」【実施日】2023年8月23日（水）～28日（月）の5泊6日【参加人員】 学生連絡協議会11名【記録】 本年も城崎温泉関係人口構築委員会との共催で「城崎インターンシップ」を NPO 法人観光力推進ネットワーク・関西 学生連絡協議会が募集を行い実施しました。（1）8月7日（月）事前研修会。（2）23日（水）7時に大阪に集合しバスで移動、各旅館で体験型インターンシップ（27日（日）まで）。（3）25日（金）城崎温泉灯篋流しにイベントスタッフとして参加。（4）27日（日）城崎1日観光。（5）28日（月）各テーマおよび各旅館での体験についての発表会。後にバスで大阪へ移動し解散。



3) 学連協【第10回学生研究発表会】【実施日】2024年2月16日（月）11:45～18:00【会場】 阪南大学あべのハルカスキャンパス【概要】 参加は14チーム、参加大学は5大学でした。詳細は NPO ホームページ【 <https://www.kankoryoku-npo.jp/> 】をごらん下さい。



（写真）4. 支部活動2『地区懇話会』「岸和田の魅力が広がる 観光の今と未来—城下町・農・食の観光—」



（写真）7. 支部活動5『中四国現地研修会』「出雲のまちづくりと観光戦略」

